



特定非営利活動法人

平成21年 春号 NO. 38



<http://nepal-mika.jp>

saito@westeast.co.jp

ネパール・ミカの会

平成21年5月16日発行 194-0035東京都町田市忠生2-5-36 tel042-791-0602



ルンビニ、夢のつづき

ネパール・ミカの会 理事長 齋藤 謹也

マホマディア屋根修復完成時



ぬかづけば、われも善女や 佛生会 (杉田 久女)

釈迦生誕の地ルンビニを中心とする教育支援の旅も第12次(4月10日から9日)となりました。年一回の旅が基本ですから、マホマディア小学校屋根修復工事完成から始まったささやかな支援も積み重ねて、大きな足跡をのしているように思われます。

昨春(2008年)に予定された旅が、治安の悪化をふまえて延期となって、晩秋に第11次として実施され、わずか半年後の今回の支援の旅(第12次)、参加者も5名と少なく残念な部分もありますが、チトワン自然公園で象に乗ってのサイ等野生動物観光を本当に久方ぶりにおこなえたりして、少人数故の気楽さがまた楽しい旅となりました。

支援もマヤデビー小学校の落成式や懸案であったマズワニ高校の正式開校式に参列と言う形で、実にはれがましい体験を本年も行えました。特にマズワニ高校では出席者全員に感謝状が授与されたりして、村人や学校関係者の喜びが形となって表れたように思われます。

又、ルンビニ地区の既支援校も全校視察する事ができました。そして、次期支援校ティナウ校の実測調査など、実りの多いものとなりました。



更地となったマホマディア校

ただ、最初に始めたマホマディア小学校は夢の跡。すっかり取り壊され、敷地は売却されたやに聞きました。あらためて、考えると当初は私共の思いだけで開始した改築工事。村人との話し合いも無く、ほとんど工事に直接関与せずという形でした。その工事に携わってくれたのは隣村マズワニ村の村民達。工事にかかる思いが、その後の支援校とはボタンの掛け違いがあったのかと、今にして思います。

全てのルンビニ地区既支援校校長との協議会懇談会を法華クラブで開催している現在からすれば、やはり、直接「関与」をしてもらう事によって、学校に愛着を持ち、少しでも誇りや自立の気持ちがわくようになる事が大切だと思います。

マホマディア小は夢の跡でしたが、その後の「夢の続き」がすてきな形として、実現している事を幸せと思います。しかし、モノや形はいつかなくなります。でも、少しでも夢を継続して「初志」が続くようにという念願がより強くなっています。

さあ、第13次教育支援の旅(来年春予定)には、是非、自分の目(ミカ)で夢を確かめに行くよう、今から準備してください。



第12次「ネパール・教育支援の旅」報告

事務局長 大谷安宏

今回の支援の旅は、余裕をもちタンセン行きは除き、チトワン観光を組み入れたものであったが、ひろしま祈りの石国際教育財団助成をもとにシリ・マヤデビー小学校の落成贈呈式、永年待ち焦がれたシリ・マズワニ高校開校式、ティナウ小学校新規建設支援校の建設準備調査、そしてヤナトラハ小中高への初の図書支援などのイベントを順調に進め、参加者が少ないながら改めてお互いに喜びあえる有意義な旅となった。

また、母親として貫禄の出たドマさん、愛くるしいヤンチェ

ンちゃんと共に食事の機会を持ち、数年前コンサートに来日のアニ・チョイング・ドルマさんと偶然に巡りあう感動の旅でもあった。



期 間 2009年4月10日(金)～19日(日) 10日間

参加者 齋藤 謹也 中野 千恵子 森山 邦男
柏木 利津子 大谷 安宏

4月10日(金) 晴れ

今村副理事長、青沼理事、齋藤美智子会員の見送りで成田空港へ。参加者5名のうち初参加2名。空港は客が少なく順調に手続き、TG641便でバンコクへ。出迎いの黄色TGプラカード見当たらず、案内係りに呼び出し要請し現れたプラカードのTGは知らされていたものと異なりデザイン化され読め取れないものだった。アヴァナHへ。

4月11日(土) うす曇のち晴れ

当初計画のフライト時間が遅い便となったため、午前中暑い中をエメラルド寺院、ウィマーンメーク宮殿見学。TG335 14:30 にてカトマンドゥへ。ヒマラヤの山々は雲に覆われまったく見えず。空港は二機が集中到着で凄い混雑で日本人と思われる客は極端に少ない。Official Gate からすんなり入国。荷物の引き取りに手間取ったがやっとラマさんに再会。

Hバイシャリへ。ネパール料理の夕食後ホテルへの道すがら、日本女性二人連れに話しかけると「明日、チトワンを予定していたが事件があって行けない」と困惑気味。バンダか?? ラマ氏からもタライ・バンダが計画されているとのこと。明朝を待って戦略会議。

4月12日(日) 晴れ

ラマ氏から昨夜遅くバンダ中止決定。昨夜完成ミカの会ノートを引取りながら、ボダナート見学。河口慧海碑を眺めながらカイラス旅行を思い描いていると、森山氏が「寺で唄を歌った女性が」と。撮影中のアニ・チョイング・ドルマさん。始め戸惑っていたがやがて親しく再会挨拶。ドイツ公演用ポスターの作成とか?

チトワンへの道は長い。暑く埃も酷い。途中、当初宿泊予定のリバーサイドロッジにて昼食。ラマさんのバイクでのルンビニ入りはこの道をインドとの大型トラックとすれ違いながら約8時間の危険な移動だ。改めてご苦勞に感謝、感謝。

チトワン宿泊先 The Rhino Residency Resort はコテージ風でプールも備えている。

宿泊客は中国人風?団体と欧米人。プラティ川岸でサンセットビューと像の水浴び鑑賞。

二人連れに歓喜再会。夕食後ラマ氏、森山氏プールへ。停電でクーラーなしの蚊取り線香。

4月13日(月) 晴れ

プラティ川を丸木舟でクルージング。舟の中狭く、不安定、雨期前のためか時折座礁。子像飼育センターまでの1時間ウォーキング、ジープでホテルへ。ショッピング。

午睡のちエレファントサファリ。動物との遭遇は予想外に少なくサイ七頭。観光客の増加で奥地に移動しているとのこと。夕食後タルー族の民族舞踊鑑賞。

4月14日(火) 晴れ

「ナエバサ コ スボカマナ」(新年おめでとう) ネパール暦 2066 年元旦だが、特別の風習はなく料理に肉の量が増える程度とのこと。片言の挨拶に現地の人たちと親近感を増し嬉しい。朝食前のんびりとバードウォッチング。バイラワで遅い昼食。ブトワールで共産党幹部殺害に伴うパンダの影響で期末試験が遅れの休校で生徒の居ないグルワマイ、ヤナトラハ、スندیー、シリ・シリ・ラム、ルンビニ、マホマディア校を視察。ヤナトラハ校は門扉、塀が整備され、校庭も綺麗で校舎の壁に日本とネパール国旗が描かれている。学校によっては教室内の整理、整頓、清掃されていない。マホマディアは校舎、井戸は跡形もなく瓦礫のみだ。第1次教育支援で訪れた際の手作りの歓迎アーチ、子ども達の歌声が思い返され空しい。

法華ホテル入り即、恒例の持参品の四つ葉会布袋、淵野辺東小の子ども達が集めた鉛筆、テニスボール、森山氏持参のミニカー、そしてミカの会ノートの分配作業。

各校長ら 10 名と懇親会は一様に新年を迎えた日に会した喜びと今までの多様な支援に対する感謝と更なる支援の継続が述べられた。

突然の停電によるクーラーなし、蚊取り線香。日中の気温は35℃超か?

4月15日(水) 晴れ

朝食前にルンビニ公園観光。日本寺佐藤上人訪問。

シリ・マヤデビー校への狭い曲がり角での難儀。石に乗り上げラジエーターから水漏れ。雨期明け遅れに村人が砂利を運び補修した跡があちこちにある狭い農道。そして真っ白に仕上がった3教室と職員室。村人、子ども達の笑顔と拍手そして花飾りの歓迎。

式典に続きテープカットに大歓声。教員に祝い金を贈り、ノート、エンピツなどを配布。

シリ・アマリ校も他校同様休校。同校とともにシリ・マヤデビー校のひろしま祈りの石国際教育財団の助成に改めて感謝。

予定時間を遅れてマズワニ高校へ。道路側には地元へ寄る塀が設けられており、小中校生が揃い出迎え。今までの支援に対しネパール・ミカの会と支援の旅参加者に感謝状が寄贈された。正式の高校入学認可は今暫く掛かるが8年生数名に証書が手渡され期待の祝福の拍手を受けていた。'99年シリ・マズワニ小学校に3教室1職員室、2001年中学校新設、'05年2階建の図書室併設の高校落成、不安定な情勢を経ながら開校式を迎えたことは感慨無量であり、マズワニ小中高校がこの地域のモデル地区になることを期待したい。女子学生の歌唱に続き、中野さんのオカリナ演奏で森山、柏木さんの合唱「ふるさと」のお返し。

シリ・アディアリ小学校も他校同様中学校併設を計画中、土地の狭いために'02年建設支援校舎に2階を載せたいとの意向に強制的に保証確認の必要を伝える。教室の一室が図書室として整備されよい環境である。

法華ホテルの大風呂が通常は停電による経費増大により利用できない。ラマ氏の総支配人に熱心な電話折衝によりOKとなる。客が少なく経営的に苦しい模様。

4月16日(木) 晴れ

支援の旅の前半の観光モードからルンビニ入りで本来の忙しいスケジュールが進む。マホマディア校に立ち寄るが全くの平地が空しい。10周年記念運動会で会場提供を受けたヤナトラハ小中高校への図書支援は時間の関係で国道上での贈呈式。グルワニマイ校で電池切れの時計に持参(予備セット)の電池交換で動く。前面のアクリル板(2mm)は投石により割られており、金網でカバーか厚手のアクリルに要交換。次期建設支援候補校ティナウ小学校訪問。2教室と2教室分の基礎があり敷地も広い。基礎の部分は将来中学を建設の予定とのこと。中野さんと敷地、校舎の測定。基礎の脇は沼地であり建設は控え、現在藁ふきの小屋に3教室建設が最適。職員室の建設場所未定ラマ氏検討。

12:30 バイラワ発フライト。ヒマラヤ見えず。法華ホテル経理担当家族と同乗。H バイシャリでラダと落合う。すっかり大人染みて昔の愛らしさはない。昼食同席カトマンドゥでのラダの実状を聞く。タンセンカカトマンドゥで小学校の教員を目指して、N・R College 教育学部(3年制)に在籍中。明日、学校、宿舍視察予定。

中野さん中心に民芸品買出し。ラマ氏打合せ事項、書類整理。夕食チベット料理にドマさん、ヤンチェンちゃん同席。ドマさん母親主婦の貫禄。日本語を2週間特訓でかなり喋る。ラマさんヤンチェンちゃんにベタベタ。ラマ氏帰宅時オートバイにドマさん横すわりにヤンチェンちゃん抱っこ。

大いに危険。

4月17日(金) 晴れ夕刻夕立

ラダと待ち合わせN・R College 視察。建物として立派。徒歩で10分ほどの静かな地域のアパートの部屋はサビタの主人の住んだ部屋で2ベッド、炊事場、トイレ付きの立派な部屋。2400Rs./月

パドゥマカニヤ校視察。奨学生8名参加。淵野辺東小からの絵を渡す。

パタン観光、昼食後博物館観光、王宮広場より買い物しながらホテルへ。

ラマ氏帰国時持参のノート引取り。夕食タメル古都予定がクローズ 桃太郎に変更、ラマ氏打合せ

4月18日(土) 晴れ

朝食前理事長ら4人スワヤンブーナート観光。
パシュバトナート観光後 11:00 空港へ 13:50 発
バンコク着 22:10 発成田へ

4月19日(日) 晴れ

6:20 成田着 カトマンドゥからの荷物未着窓口へ。バンコクで積み残し、8:00 着で搭載予定 航空会社負担宅配便での手続き。7:10 発バスで相模大野、町田へ。
夕刻バック到着

支援旅行記

中野千恵子



第12次教育支援の旅は暑さ体験旅行でした。

トランジットのバンコクでは、飛行機の関係で半日観光。王宮等を見学したが、気温だけではなく湿気もあったので、汗だく。車の中がホッとするとところでした。

夕方に着いたカトマンズは停電中でホテルバイシャリのエレベーターもストップ。階段をテクテク。

このときは重いスーツケースを運んでくれたボーイさんに感謝、感謝。

翌日、チトワンのバンダも泊まり、予定通りにチトワンに向けホテルを出発。途中、ボダナート見学。その時、偶然にも、尼さんであり歌手のアニさんが写真撮りをしていました。その後、ミカの会で始めて作ったノートを車に乗せ、暑い車の人になりました。昼食はプリンタール。ホテルにはプール等もあり、とても気持ちの良い時間を過ごしました。

チトワンのホテルに14時30分着。夕食までのんびりし、ラティス川の辺で夕日と象の水浴び見学。あまりに暑いので、ホテル内のプールで泳いでいる人々もいました。

気持ち良さそう。停電なので、夕食はろうそくの明かりの中です。部屋はろうそくと懐中電灯が必需品。虫が入ってくるのと無用心なので窓も開けられず、暑い中、睡眠。

翌日の午前中はカヌーの舟下り、水かさが少ないので何回も座礁。舟を降りた後は一時間ちょっとの森の中のハイキング。小象の飼育場を見学。珍しい双子の小象もいました。午後は象のサファリ観光。象を怖がらないサイを9匹見ました。川に鰐がいたようですが、もぐっている為、あまり解らず。他の動物は森の中に象が頻繁に入るので、森の奥へ逃げてしまったそうです。残念。夕飯まで、買い物。自分の民族衣装も買ったので、部屋に戻った後、着用。

翌日はネパールの2066年の新年です。ナワバルサコ スパークマナ。

朝、食事の前にバードウォッチング。8時45分にルンビニに向け、ワゴン車乗車。暑く団扇と扇子が放せません。バイラワのイエティHで昼食。

今日 学校は試験休みとの事ですが、学校訪問する事になった。グルワニマイ、ヤナトラハ、スンディ、スリースリーラム、ルンビニと観て回った。訪ねてみて、いろいろな事が判った。どこの教室も鍵はかかっているが、窓から覗いてみた。紙切れが沢山落ちていて、ほこりだらけの教室。綺麗に掃除がしてある教室。校庭も清掃してある等。厭らしいかも知れないが有意義ではないかなと思った。

法華ホテルで校長先生達を招いて夕食会が開かれた。なかなか時間通りには集まってこない。昼間は暑いので、小麦刈りは日が落ちて暗くなるまでが仕事だそう。確かに昼間は暑くてなにもする気がしないのは、よく解かった。

やっと、全員揃い夕食会が始まった。どこの校長も言うことは同じだ。教室が足りない、中学校が欲しい、パソコンを授業

で使いたい等。きりが無いと思った。
翌日はマヤデビ校の落成式 アマリ校 マズワニ高校開校式 アディアディ校。



マヤデビ校に行くのには車が曲がれず一苦労。道は整備してあった。校長先生はとても緊張していたようだ。マズワニ高校は念願の開校。出来上がってから、4年位経ったかもしれない。ラマさんに本当に感謝したいご苦労様。今回、支援旅行の全員に感謝状を貰った。そして、4人の女の子がお礼の歌を歌ってくれた。

まだ、高校生徒全員が決まってないとの事だったが、女の子が多い感じがした。

16日はパイラワからカトマンズに戻る日。今日も暑い。45度Cになりそうだと言う。ルンビニに来てから何故か汗が顔に出てこないなあと思っていたら、額はガサガサ。汗が出て来る前に乾いてしまいうらしい。治るのに1週間位かかってしまった。

この位の気温だと、ヤギが歩いているとパタッと倒れ、そのまま、死んでしまいうらしい。

女の人は日よけに傘を差して歩いているのを眼にした。勿論、雨傘です。

法華Hから、跡形も無いマホマディア校を見学。寂しい事です。ヤナトラハ校には、街道で図書を渡し、グルワニマイ校の時計の電池交換をした。グルワニマイ校の入り口の所に15名位の男性達が集まっていたので、覗いてみるとビデオ観戦して、楽しんでた。

そこから、間もなく今度建てる予定のティナウ校調査。校庭に沼があるが広いので、十分建てそう。

パイラワの飛行場からカトマンズまでひとつとび。カトマンズが涼しく感じられた。

カトマンズでパタンの美術館見学、パドマカニア校、王宮見学等、目一杯の旅でした。

可愛いヤンチェンとドマさんにも会えたし、ラマさんありがとう。

第12次ネパール教育支援の旅を終えて

森山 邦男



禅宗の修行の一つとして、僧堂で毎日朝食・昼食時の始めに、袱紗で包まれた応量器(鉢:食器)を捧げ、「展鉢の偈」を唱えながら其々の鉢をしきもの(鉢単)の上に展[ひろ]げます。偈の前半は、釈迦一生の身上に起きた事柄と地名とを関係付けて述べて、後半は行鉢[ぎょうはち:作法どおりに食事をする事]を授けるの時の心構えを述べております。

佛生迦毘羅 釈尊は、現在のネパールにあるカピラヴァスツ(迦毘羅)で生まれました。

成道摩揭陀 マガダ国(摩揭陀)のブッダガヤの菩提樹の下で成道致しました。

説法波羅奈 悟った後に、ヴァーラーナシ国<波羅奈>の鹿家苑で付人であった五人の修行者に始めて説法を致しました。

入滅拘稀羅 ガンジス河支流の河畔近くのクシナガラ<拘稀羅>の沙羅双樹下で入滅致しました。

如来応量器 如来(修行を円成した人)も用いたこの応量器を

我今得數展 我、いま開き用いるについては

願共一切衆 衆生(修行僧達)と共に願う

等三輪空寂 三輪(施者、受者、施物)に等しく執着しないことを

ここで分かりますことは、前半は、お釈迦様はネパールで誕生した事。後半の「三輪空寂(さんりんくうじゃく)」の事はチョット分かり難いですね。

三輪空寂のことを簡単に説明させていただきますと、浄財を施す人[施者:せしゃ、能施とも言う]と、それを受ける人[受者:じゅしゃ、所施とも言う]、そして施されるもの[施物:せもつ]の3つが、等しく空[くう]であることを、それは清浄[しょうじょう]である事なのです。施者が『私が此の物を誰々にあげる』という思いが有ったり、また受者が『私が誰々に此の物を貰った』という卑屈さがあるうちは、布施された施物は、我執(がしゅう)のものとなります。さらりと渡してさらり受取り、あたかも施物が元々其処に有ったが如く、両者ともさらりと去る。これら三つが等しく何の思いも残さないというのが最上の布施であるとされています。

ネパールは土埃と喧騒と臭気は、まさに60数年前の第二次世界大戦直後の日本の道路状態や無秩序さの様でした。ですが、非常なる活気を感じた国でした。

帰国いたしまして、日本は平和で、静かで、清潔で、豊かで、また何処でも水道の生水を安心して飲む事が出来る有難さを痛感し、そしてまた緑輝く木々、草花に満ちております。併し、このことで決して、日本が良くて、ネパールがそうでないと云う彼此を比べる事ではありません。現在の日本では経済的合理主義台頭の故に毎年1万数千人の自殺者、また多くの過労死の発生があります。短期間のネパール滞在でしたがその様なことを感じさせるものはありませんでしたし、TVでは朝早くから長時間に渡り宗教放送の時間があり国民の情緒的安定を図るものが有りました。日本では無宗教が恰も知識者を標榜するような風潮があり、すべての

公の行事が無宗教を規定付けております。また、一方では人間関係は不信感に満ち溢れているように思われます。

ネパールの主幹道路はどうか舗装されていますが、埃と猛烈な車の振動と猛暑と絶え間無い警笛音の中での移動で、日本から鉛筆、テニスボール、縦笛、ハーモニカ、ハンカチ、バンダナ、ミニカー、手提げ袋等々、それと重量の関係で日本から持って行く事が出来ない為、予め現地手配しておいた静岡県由比海岸からの日本の富士山を印刷した約1000人の子供達へのノートを手荷物に乗せて、13箇所の学校を巡回致して来ました。

ノートの梱包は悪路のため角が磨り減ってしまう程、冷房の無い車の中は窓を開けている為土埃でザラザラ、私は暑さで人一倍水を飲むため何時も手にはペットボトルとタオル、黒い作業衣は汗が乾き塩で白くなっていました。

話は変わりますが、鎌倉時代の明恵上人ほど釈尊を慕う日々を過ごした僧はいないといわれています。30歳の時から、明恵上人は釈尊に対する思慕を抑えがたく、仏蹟のある天竺(ネパールを含めた北インド)行きを何度も志し具体的に計画致しますが、ところが色々な出来事が次々と明恵上人の身边で起き、明恵上人が天竺行きを実施出来なかったことが伝わっています。とにかく本当に明恵上人はどうしても釈尊の遺跡がある天竺へ行きたくてしょうがなかったようです。明恵上人は天竺行きを諦めてから、紀州白上峯の沖合にある島を天竺と思い、心中から礼拝していたと言われます。天竺の釈尊の遺跡も河のほとりにあり、その天竺の河の水も明恵上人が今ここにいる紀州の海と続いていると考えて、白上峯の磯辺で拾った石を釈尊形見の仏足石と思い、大切に持ち帰って拾ったその石を終生大事にしていたということが伝わっています。

昔は命を掛けて徒歩で、地図も無く、言葉も通じず、何年も何年もかけた上に、しかもその多くは辿り着くことすら出来なかったかもしれない天竺に、今では私たちは飛行機で難なく行く事が出来ます。天竺行きを何度も志しては、ついに果たせなかった明恵上人の心情を思うと余りあります。私は小学校の頃から死んだらどうなるのかとか、15歳の頃には「人生とは如何に」と哲学に興味を持ちながら仏教への憧憬が深まり18歳の時には高野山へ行きお坊さんになろうとも考えておりました。30歳の時にも三河まで行って一度出家を試みましたが叶わず、漸く57歳の時に縁を得て師匠・齋藤謹也老師の下で出家得度を致す事が出来ました。ですから、私のような者が簡単に釈尊誕生の地へ行けると言う事は明恵上人に対して申し訳ない思いがありますし、また天竺行きを実行して帰る事が出来なかった名も無い多くの僧が居たとも言われており、そういう方々に対しても忸怩たる思いがあります。ですから一生出来ないと思っておりました聖ピッパラ樹およびアショーカ王記念石柱の前で齋藤謹也老師と共にお経を唱え、釈尊誕生の地点を示すマーカーストーンにもお参り出来ました事には感慨無量でした。

ネパール教育支援の旅はNPO法人「ネパール・ミカの会」の理事長をしております齋藤謹也老師よりお誘いを昨年に受けましたが、昨年はネパールの政情不安により中止となり、今回の参加となりました。

お聞きしますには「ネパール・ミカの会」は10数年前からルンビニに小・中・高の13校を造り、図書館建設や学生個人に学費の支援をしており、今回はその支援の結果状況を調査して新規の学校構築、校舎拡張や将来先生になる為の就学生等を確認し、今後の支援判断を報告する事にあるとのことだそうで、私はその有意義な支援の旅に同行させて頂きまして、先の事と合わせまして大変感謝致しております。また、

日本のNPO法人のメンバーの人達は毎週のようにバザーを行ったり色々資金調達の活動をして頑張っていると、今回の支援の旅を献身的にご手配、ご足労をして頂きました大谷さんから折に触れてお話を伺い致しました。

今後、「ネパール・ミカの会」の一員としてまた仏教者としてネパールのことをもっと知り得まして、微力ながらご援助をして行きたいと思っております。

世界には援助を必要としています国々が数々ありますが、現在の日本文化は6世紀の仏教伝来に素地があります。2500年前釈迦牟尼(ゴータマ・シュッダータ)が誕生したルンビニへ、恩返しである教育支援により、ネパールがより良い秩序ある国になって貰いたいと思っております。現在の繁栄ある日本が在る事はルンビニで誕生された釈尊なくしては無いわけですから、なおの事だと思っております。

日本は過去において非常に悲惨で不幸な戦争が有りました。其れは、現在の北朝鮮のように一部の特権階級を除き一般国民には殆んど国の実態を知らされず又それを理解する状況にも有りませんでした。それにより過激な政治家と功名心に長(た)けた軍人、そしてまた利権を持った強欲な軍商によって無辜の多くの日本国民を道連れにして愚昧な戦争を起しました。そして他国の300万人の人々と日本国民600万人の尊い命を失わせしめてしまったと言われております。

併し、その日本の敗戦により連合国軍総司令部によってそれまでの封建的で混乱・困窮していた日本国内を民主主義的な手法をもって統制して、世界で稀有な平和憲法を制定し其れにより現在に至るまで60年以上他国との戦いが無い繁栄した国となる事が出来ました。

私自身も戦後の食糧事情の悪い時に米国政府の食糧援助を得た学校給食を享け、また米国ボランティアからの教育資材(小学校の校庭に並び鉛筆・ノート他を貰った事がありました)を受けて育った一人です。この事からしてもネパールへの教育支援のボランティアに微力を尽くして頑張りたいと思っております。

今回の旅で奇遇な出来事が有りました。チベット仏教寺院のボダナートを参拝する際に、2006年6月に築田寺でライブコンサートをしたチベット仏典やマントラを哀愁帯びて秘めたメロディーで歌う尼僧のアニ・チョイン・ドロマさんに偶然にも出会いました。彼女はストゥーパを背景にドイツから来ていたカメラマンと撮影をしていたところでした。小学校の時からポートレート撮影が好きでしたので自分が撮った写真は記憶が残っております。築田寺の薄暗い本堂での彼女のポートレートの残像がストゥーパを背景にした彼女と一致したのです。初めは似ている尼さんが居るものだなと云う程度でしたが、外人のカメラマンを相手に長い時間ポーズを取っている彼女を見ていたら確信を得て、別の場所で買い物をしていた方丈に直ぐにその事を報告いたしました。日本より狭いネパールとはいえ本当に奇遇な事でした。

今回の支援の旅に行き、長い間、気にしている二つ事が氷解致しましたことがありました。一つ目は「ネパールでは施しを受けた方がお礼を述べない事」

「あのお坊さんはお布施を遣ったのにお礼の一言も言わない」と、一般的には余り理解されなく誤解されている事でもあります。日本のお坊さんはお布施を受けても、施者の功德を尊重(施者の功德が無く

なる)するが故に感謝の意は所作では表しますが「有難う」という言葉で持って表しません。これは冒頭に述べました「等三輪空寂」と云う天竺から伝播された仏教文化の教えなのですね。(ネパールでは物やお金をあげても顔は非常に嬉しそうですが「お礼の言葉」は決して言いません)

二つ目は「日本のお地藏さんが『赤い色』の涎掛けをしている事」

次男の青い目のお嫁さんに「日本のお地藏さんは何故『赤い色』のエプロンを掛けているのですか」と質問を受けて答えられなかった事がありました。それが漸く分かりました。ネパールでは赤い色は「吉祥」を顯す色であるということだそうです。ヒンズー教の数々の神像は殆んど赤い色塗(まみ)れでした。お祝い事の時や人を歓待する印にも額に赤い顔料を塗る習慣があるということでした。

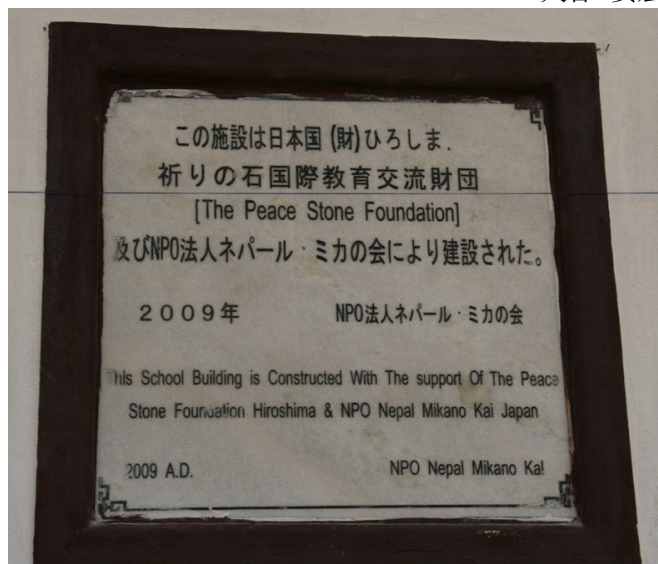
最後に、専門的な事で大変申し訳ありませんが私は長年、保険会社で社有物件の安全性確保のために定期検査などの業務に当たっておりましたので非常に気掛りな事がありました。

ネパールはインド・ヒマラヤ造山運動を起しているユーラシアプレートとインドプレートの接合部付近に有りますので当然大地震が発生致します。法華クラブホテルで購入した「救済の聖地ルンビニ」の中にもルンビニの地震の記録が有りました。支援の旅の中でネパールの多くの建築途中の建物を見ていてどの建築物も柱は細い鉄筋4本(12φ?)で建設しており、また、鉄筋に対する壁・柱・梁のコンクリートの「かぶり厚さ」が薄く(「かぶり」が薄いとコンクリートの中酸化により鉄筋が発錆し強度減衰を起こします)、柱の「帯筋」や梁の「肋筋」の間隔が空き過ぎていて耐震性と床荷重対応が無い事に非常なる危惧が有ります。つきましては、今後「ネパール・ミカの会」が学校を建設する際にはその事には十分に配慮して頂きたいと思っております。

[完]

落成式 開校式そして建設支援調査

大谷 安宏



第12次教育支援の旅の主な目的はシリ・マヤデビー小学校の3教室1職員室の落成式の参加、待ち焦がれたマズワニ高校開校式そして新規建設支援候補校ティナウ小学校の視察と準備調査であった。

‘05年11月落成完成のシリ・アマリ小学校4教室と今回のシリ・マヤデビー小学校の3教室1職員室の建設はひろしま祈りの石国際教育交流財団による助成によるものである。

当財団には‘03年ルンビニ公園より東に6Km程のビチャウワプール村シリ・ジョナ・ジョティ小学校に3教室1職員室の建設支援校として申請、翌年2月助成対象事業として助成が決定された。しかしこの頃はマオイストによる活動が活発化し、円滑な建設作業に不安を感じたラマ氏のルンビニ地区に近いシリ・アマリ小学校に建設対象校を変更したい旨の提言に第8次教育支援の旅にて現地を訪れた。校庭に巨大な樹が茂り、周囲の素朴な集落の点在する長閑な学校であった。

助成事業対象校変更申請書と共にシリ・アマリ校建設計画を提出、承認を得て建設着工、学校側からの天候不順による早期校舎使用要請に財団の了解を得て外壁未塗装にての利用などを経て、‘05年第9次教育支援の旅にてめでたく落成贈呈式を執り行った。

シリ・アマリ小学校の帰路、次期建設支援校候補として程近いシリ・マヤデビー校へマイクロバスをジープに乗り換えて細い農道を進む。校庭から遥かに白く輝くヒマラヤの峰々が望めた。休日であったが子ども達や部落の人達がいぶかしそうに集まり始める。「この方がこの部落の一番の高齢者です」とのラマさんの紹介に「ああ、そうですか、長老ですね。ナマステ」と挨拶に、周りのこども達が一斉に笑い始めた。ネパール語で「チョーロー」とは泥棒と言う意味とのラマさんの解説にすっかりその場の雰囲気が和んだ。帰り際生徒から「道路が悪いので気をつけてお帰り下さい」の一言が嬉しかった。



‘06年次期建設支援校としてシリ・マヤデビー校を助成申請したが残念ながら助成対象と認められず、学校側からのラマ氏への再三の建設要請に‘07年北京オリンピックの影響による建設資材高騰の状況下の再度申請し翌年に助成対象事業として認可された。‘08年、この年は雨期明けの大幅に遅れと多雨によりマヤデビー校への狭い農道は冠水、ぬか

るんだ道の資材運搬は建設計画を大幅に遅らせたが、部落の人達による道路補修により工事は難航しながらも進んだ。'09年、第12次教育支援の旅の車は農道への鬼門の曲がり角で石に乗り上げラジエーターから水漏れ、長い農道は人力で運ばれた砂利で補修された箇所があちこちに見られる。校庭に多くの人々が集まり、子ども達から花の首飾りと色とりどりの花々で歓迎を受ける。四つ葉会布袋、淵野辺東小の生徒からのエンピツ、ミカの会ノートのプレゼントに大喜び。強い陽射しに真っ白な校舎が眩しい。三つのドアのテープカットにこれまでの多くの建設に携わり大変苦労しているラマさんが行った記憶にない。今後は是非ともメンバーに加える配慮を痛感しながら、今までの永い支援活動の経緯を思い返していた。

虎ノ門の当財団への途中に立派な金比羅宮ある。助成申請書提出の際は助成認可を願い、完了報告時には現地の子ども達の笑顔を思いながらの報告とお礼をしている。これで今回も事業の無事完了を財団そして神様に報告できる。ラマさんに感謝、感謝。



慌しく次のマズワニ高校開校式に移動。入口には地元による立派な塀が作られ、既に多くの人々が待ち構えている。シリ・マズワニ小学校は'99年ネパール・ミカの会初の建設支援として郵政省国際ボランティア貯金の助成をもとに3教室1職員室を建設落成した。

その後、地域の強い要請により'01年マズワニ中学校はボランティア貯金助成をもとに、上級校らしいレンガ作りのデザインで新設開校。遠距離通学は容易となり、特に女子の就学が大幅に向上した。これ等の生徒を更に上級校へと'03年第7次教育支援の旅で高校新設を樹を切らないことを条件にミカの会初の2階建て2教室1職員室、図書室・閲覧室の計画が進められた。銀座あけぼの植草氏、国際ソロプチミスト町田一さつきの建設資金助成と共に建設が進み、'04年国際ソロプチミスト町田一さつきの皆さんによる建設状況の視察などを経て、'05年第9次支援の旅で落成贈呈式が盛大に執り行われたがネパールの民主化運動の活発化、マオイスト勢力の台頭など国家行政、治安は混乱し村長制度の廃止、高校開設届出先の不在などに開校は大幅に遅れ、対応にラマ氏の奔走が続くままに4年の歳月を過ごした。開校式はバンダの影響で期末試験が伸び、最終高校入学者の確定は些か先になるが、内定者8名を含む多くの制服姿の小中校生が整然と整列する中、待望のうちに執り行われた。ミカの会と参加者への感謝状の授与、成績優秀者への賞状授与に引続き、生徒代表の歓迎の合唱、そして中野さんのオカリナ伴奏による「ふるさと」の合唱に大拍手と式典は進んだ。強い陽射しに切り残した樹々は子ども達に涼やかな木陰となっていた。四つ葉会による昨年落成のグルワニ

マイ小学校四つ葉ライブラリーを視察。10周年記念合同運動会で会場を供与されたヤナトラハ小中高校へ路上にての図書贈呈、そして次期建設支援校のティナウ校にも子ども達、先生、地域の人達が出迎える。周囲を椰子の木のある開けた敷地に綺麗に維持された校舎。理事長、女性校長挨拶。資金提供者の突然の逝去に非常に残念がられ、完成時の遺族のルンビニ入りを望まれる。2教室分の基礎のみには中学校の建設を予定しているとのこと。中野さんとの校舎、敷地の採寸、3教室1職員室のレイアウト検討にノート、エンピツ配布などフライト時間が気になり慌しい。



ネパール・ミカの会設立の原点である雨漏り修復支援のマホマディア小学校は移転廃校全くの荒地となり、残念ながら山下井戸も跡形もなく空しい。

校長夕食懇談会は今までの支援に対する謝意とともに次なる支援の要請が続く。学校制度の改正が伝えられており中学併設によるものだが、今回は新たな2校から建設支援要請を受けた。この12年間建設支援をしたところと未支援との格差を限られた資金でどのように対応するか今後の難しい課題であると思う。

第12次教育支援の旅は従来の慌しい日程を改め、タンセン行きを取止めてチトワン観光を組み入れたが車で移動距離も長く、ルンビニ、カトマンドゥでは相変わらず慌しいものだった。

ご心配頂いたバンコクでの騒動にも遭わず、幸運にもバンダを回避されお陰さまで計画通りに旅を進行することができた。また、ラマ氏二世の愛くるしいヤンチェンちゃん、貫禄のでたドマ夫人との夕食会。ボダナートで歌手アニ・チョイグ・ドルマさんとの偶然の再会、教師を目指しカトマンドゥに学ぶ“塩屋の娘”ラダとの面会など新たなそして懐かしい出会いもある有意義な旅であった。

ネパール紀行

柏木 利津子



何十年も外国に行った事がないので、色々な事がわからず、失敗ばかりして、皆様には大変な御迷惑をおかけして、

済みませんでした。

12 日、大きな川を舟で下り、夕日を見ながら、ゆったりと川を下り、象が川を渡ったりするのを見たら、大自然に抱かれ、又、凡ゆる所で、牛が草を食み、羊が道路で遊んでいて、自然と人間が調和している感じがした。

又、林の中に大きな蟻塚を見たのも驚きでした。熱帯に来たみたいな感じがした。世界遺産を沢山見せて頂き、スケールの大きいのにびっくりしました。又、ネパールでは 4 月 15 日が元日だとのことで、びっくりです。

又、あこがれの象さんに乗せて頂き、犀が自然に生活して、水にもぐっているのを見て感激しました。

学校を 2.3 校廻るのかと思って居ましたら、12 校も廻って、方丈さん始め、ミカの会の方々の苦勞が良くわかりました。そしてもっと援助して欲しいと云われているみたいで、大変だなと思いました。

又、マズワン高校では、表彰式があり、10 年続けた人も貰えないのに、たった一回行った丈で、森山様と、私が素晴らしい額入りの賞状と歓迎を受け、申し訳なく思いました。

一番の目標だったルンビニのお釈迦様の遺跡もお参り出来、帰りには、飛行機の中より、エベレストも見られて、大変満足しました。

これも方丈様始め、皆様の御陰にて、とりわけ、中野様には、1 から 10 迄教えて頂き、大谷様にも大変御迷惑をおかけして、申し訳なく思っています。

私の人間生長の為に大変役立った事と思います。

文章と云うものをあまり書いた事が無く、拙い文章ですが、繰り返し唯感謝です。

「ミカの会のオリジナル・ノートができた！！！」

ネパール・ミカの会 副理事長 今村 旭



我が「ネパール・ミカの会」も、ネパールでの支援活動が 12 年も続いているが、教育支援のひとつに、学用品の児童・生徒への配布も事業の中で大きな柱のひとつとなっています。ノート類は重量がかさむため、1000 冊単位での購入はルンビニでは不可能であることから、バイラワなどで現地調達していました。大きな文具店といえど、品揃えは充分ではありません。特に、表紙のデザインが児童向けで、かつ気に入ったものがなかなか見つからず、選定にも時間がかかり、いつも苦勞していました。

昨年の 11 月の「第 11 次支援の旅」でも 2000 冊位を購入するのに、良いものが見つからず、ラマ氏も苦心の調達でした。店員さんがあれこれ選んでくれている時に、ラマ氏が私に「自分たちのデザインで作っても費用はあまり差がないですよ。」と言い、「写真原版でもあれば考えましょう」と提案してくれました。「そうだ！自分たちのデザインのノートができ

れば、それはまた、すばらしいこと！よし！企画を持ち帰って検討しよう！」その時、「オリジナル・ノート作成」のアイデアがフツフツと湧き上がりました。

帰国して、早速、理事会で報告し、検討し始めました。そんな折、昨年の 12 月のある日、葛飾区学校歯科医会の役員をしている友人の川本先生から電話が入り、「今度、会員の学術研修会でネパールに関する講演をしてくれないか」との引き合いが来ました。一瞬、躊躇しましたが、「そうだ！プレゼンテーションを中心に内容をつくり、ネパールの現状を伝えるのには、とてもいい機会になる！」とお受けすることにしました。そして、本年、1 月 29 日、葛飾区学校歯科医会へ出かけて会長の高橋先生以下、集まってくださった会員の方々に対しての講演会を無事、行うことができました。そこで、思いもかけずに、多額の謝礼金をいただいたのです。深夜、帰りの千代田線の車中で、この貴重なご芳志に何か良い使い途をと思いを廻らした。「そうだ！オリジナル・ノートを作る資金にしよう！」と心にひらめいたのです。

早速、後日、会計に、この、いただいた礼金を基に自分の資金を少々増額して、ノート製作の予算化をしてもらい、実現に一步前進しました。表紙のデザインは、会員の大家武晴氏の得意とする写真の提供をいただきました。駿河湾から富士山を望む日本的な情緒のすばらしい図柄で決定しました。事務局が素早い対応をしてくれて、カトマンドゥに送り、すぐに作業に着手してくれました。4 月の初旬の「第 12 次支援の旅」に滑り込みで 5000 冊が完成、ルンビニで、児童・生徒にめでたく配布することができました。

ネパールでの教育支援のひとつに葛飾区学校歯科医会からミカの会を通し、何か一本の道が通じたような感じがしました。これからも色々な道がネパールに通じ、児童生徒の教育環境に少しでもプラスになることを念じて、改めて小さな積み重ねの大切さを学びました。

ご協力いただいた、皆様に大いなる感謝を申し上げます。



編集後記

理事長の挨拶の中にあるようにマホマディア小学校が更地にされていた。数年前から廃校になっていましたが、実際に取り壊され更地になっているのを見ると無念さがこみ上げてきます。廃校に至る経過は分かりませんが最初の支援校ただけに感慨も深いものがあります。1997 年にネパールを一緒に訪問した高原さんは故人となられた。坂さんと私は理事を退任する。新生ミカの会に一層の活躍を期待します。S.K

最近会報の発行は不定期となってしまいましたが、次号からは発行月を固定させる計画にします。次号は 7 月で 10 月 1 月 4 月の年 4 回を予定にしますので、原稿等をよろしくお願い致します。T.S